

食政策センター・ビジョン21代表
安田節子

米の国内自給を維持し、水田面積を減らさないこと

これを「計画」のど真ん中に据えるべき

稲作農家の減少により水稲作付け面積は50年で半減！

減反や水田つぶしの畑作化を止め、目いっぱい生産し、
余剰は備蓄買い上げし、不足には備蓄放出を速やかに行えるようにすること

米備蓄の拡充が必須

主食用米は2025年以降生産量が需要を下回るようになり2040年には156万トンものコメが不足するとの予測 (三菱総研)

備蓄米、わずか4カ月分という

政府備蓄100万トン→1000万トンに
その費用は5000億円程度 軍事予算年7兆
円超と比較してわずかな額
中国は1年半分の備蓄を行っている

メタン発生を理由に水田つぶしを止めること

「持続可能な農業に関する日米対話」

温室効果ガス等の削減「見える化」提示

水田削減を進めることになる

米の自給を失えば日本の米国隷従が完成する

環境負荷低減は
「有機農業推進」と「農薬、化学肥料削減」が必須

農薬使用大国という日本農業の一大欠陥は
是正されるべき

田畑から水系へ、水道水からネオニコ農薬
水田で多用のカメムシ斑点米防除農薬
元凶は

米の等級制度の着色粒規定 見直しを！

水田の有機化、全国普及を

有機米は気候変動にも強い
有機稲作への転換を進めることで
水田保全と安全な米の供給と生物多様性、
環境保全が成り立つ
外部資材への依存不要、地域内物資循環で成り
立つ自給農業である
有機稲作技術の全国普及を展開すべき

従来育種による新品種作出を手厚く支援すること

従来の育種技術によって気候変動に対応できる新品種が作出されている DNA マーカー育種で短期間での作出が可能になっている

「種子の保全」が必須、国の責務とすべき

ゲノム編集技術への依存、偏重は止めるべき

食の安全や環境への影響はまだ定まっていないこと

ゲノム編集の基本特許は海外のバイテク種子大手企業が握っている
日本開発のものでも商品化にあたっては基本特許使用料が求められ、
バイテク種子大手企業の懐に入るしくみ

市場価格は高価にならざるを得ないゲノム編集食品が食料不足、食糧難を救うことはありえない